

地域のできごと

R2.7

ドローンによる水稲防除・追肥作業省力化の調査開始！

信濃町は、全耕地面積の63%が水田で稲作が盛んな地域です。

しかし、近年では生産者の高齢化により、一部の大規模生産者への農地集積が進み、経営面積が更に拡大しています。そうした中で、規模拡大に合わせた管理作業の省力化やコスト削減が求められています。

そこで、信濃町とJAながの、長野農業農村支援センターで組織する「信濃町営農支援センター」では、町内の企業と連携し、農業用ドローンを用いて水稲の農薬、追肥の散布を行い、作業効率、及びコストについて実証を行っています。

長野農業農村支援センターでは、この取り組みを令和2年度の調査研究課題に位置づけ、ドローン散布区と従来散布区を設け、作業時間、コスト試算、生育状況等の比較調査を実施します。

5月28日には関係者約30名が見守る中、第1回目の除草剤散布が行われました。

ドローンはタンクに除草剤750gを積んで、時速14kmで飛び、84aのほ場を約5分ほどで散布し終わりました。

今後もドローンによる追肥や殺虫剤散布の作業時間等を調査していく予定です。



図1 散布に使用したドローン



図2 ドローンによる散布状況